

事業番号 1-2

細事業名 防犯活動推進事業

担当課名 自治振興課

会議内容 平成24年7月20日 事前説明会

事業担当課より説明

～ 質疑応答 ～

(評価者) 委託料の予算の内訳について、委託料の方は先ほどご説明いただきましたが、防犯協議会210万円の内訳は。

(担当) 平成24年度予算は、地域の安全運動の実施ということで啓発物品の購入、のぼりやティッシュですが、これが15万円。資料の作成ということで防犯委員の勉強会、情報交換、これが2万円。それから大きなところでは支援活動として一支部に1万円、33支部ございますので33万円。プラスアルファで増加分として2万円など、支部に対し、合計40万円を助成している。それから防犯役員の委員用のベストや帽子の購入ということで15万円。それから大きなもので言いますと防犯協議会情報誌の発行ということで印刷製本費として20万円。それから各種会議の開催ということで支部長等の定例会議で開催通知代や切手代、封筒代など諸々の費用として15万円。これが主な経費です。それからもう一つの委託料である少年補導事業19万円の内訳は、補導の実施ということで3万7800円。それから非行防止教室の開催にかかる経費で4800円。それからその他の消耗品等々で3万円。機関紙購入で6万円という内訳となっている。あと、放置自転車は、今、放置自転車がどのぐらい放置されているのかといった具体的な資料は、道路交通の方が所管しているが、今日はその数字を持ち合わせていないので、また後日報告したい。

(評価者) 自転車盗とバイク盗は、データとしてどの辺で盗られているか？

(担当) 河内長野駅前のノバティながの、あの辺で放置自転車が盗られているとか、あと大きな集合住宅の駐輪場で盗られているという状況。自転車は駐輪場で盗られる場合が多く、オートバイ盗は駐輪場も多いが、自宅も多く、ロックをかけているにも関わらず盗られるという状況だと聞いている。自転車盗は鍵をかけていないので盗られるということを知っている。鍵をかけることは大事であるということで、今年度はワイヤーロック錠の配布を考えている。

(評価者) 七月は社会を明るくする運動の強化月間だが、そこに防犯協議会が入っている。防犯を防犯協議会だけでやるのではなくて、社会を明るくする運動で啓発を行うことも団体への拡充につながるのではないかと思う。それから個人的なことになるが、私は見守り隊をやっているのだが、そこによく防犯パトロールの車が通りかかり、見守り隊とは全然関係が無いというような顔をして行ってしまう。見守り隊も安全を守る団体であり、帽子

をかぶって腕章を付けているので、もう少し注意していただけるよう市から指導してもらえればと思う。

(担当) 連携を図りながら子供達が安全に過ごせるよう、より効率的に取り組んでいきたい。

(評価者) 防犯という限られたことではなく、今、世の中は複雑化しているので、横のつながりをもっと必要ではないか。それから個人個人のライフスタイルがテレビの普及等で夜型に変わってきており、12時、1時に起きている家もザラにある。毎年12月31日に夜警で回っていても、ほとんど100%起きている。地域によって多少差はあるだろうが、河内長野は全体的に見て抑止はかなりできているのではないか。まあ、犯罪が少ないという部分もあるが。それと例えば他市では夜中にパッカー車が事業系のゴミの集配に行き、車上荒らしを見つけたらすぐに警察に連絡するよう無線機を持たされている。それから3時になったらもう新聞配達をしている。早いところになると5時頃に犬の散歩ということで、24時間ほとんど起きている。防犯カメラの話もありましたけれども、抑止力をいかに上げていくかということに尽きると思う。河内長野は四人に一人はお年寄だが、少年犯罪などは他市と比べてどうか。サラリーマンをやっていたころ、三日市駅前であむろしている少年に注意して揉めたことがある。少年犯罪についてはどうでしょう？

(担当) 少年犯罪の詳しい件数は少年係に確認してないが、22年から23年で犯罪件数は少し増えた。自転車盗、オートバイ盗が少し増えてしまった。オートバイ盗や自転車盗といったものが他の犯罪につながることもある。

(評価者) その辺が、例えば三日市の駅前であむろしていることに対して、パトカーが通っても注意もしない。抑止という目線でもう少し行動が必要ではないかと思う。うちの住宅もそうなのだが、お年寄が増えたために昼間もずっと誰かがいる。そういう部分で横の連絡の芽があるような気がする。農村部と新しくできた住宅地で、犯罪の比率はどうか。

(担当) 個別の件数は出ているが、農村、住宅地に分けたものは出ていない。

(評価者) 集合住宅は入り口が一か所か二か所がほとんど。そこに防犯カメラを付けたら住宅を出入りしているのがわかる。ところがそれ以外のところがなかなか分かりにくい。集合住宅以外のところでは防犯灯が非常に少ないというのもある。

(担当) 今年はある地域で、入ってくる道筋だけ防犯カメラを設置して押さえていく。侵入する道を全て押さえて、犯罪者が来ないかどうかというのを見張っているというケースがある。

(評価者) 抑止力を上げていくのが大きな目標になると思うが、我々が協力することがあったらもっといろいろアピールしてほしい。

(担当) 我々ができるのは警察も含め、あるいは協議会も含め、自治会も含め連携を取りながら防犯活動をみんなで推進していく、そういうことが大事だと思います。

(評価者) 先ほど言われたように、防犯だけじゃなく、いろんなところに横串を刺して組み立てていく。

(担 当) うまく組み立てて抑止に取り組んでいきたいと考えている。

(評価者) 事業課題のところでは自主防犯活動推進助成金について、新規の団体へ広めていきたいということですが、これは団体でなければ難しいのか。

(担 当) 団体でなければならないということではないが、組織で動いていただく方が良い。防犯活動を一人でもしていただけるよう防犯声かけ運動も去年から始めたが、地域全体で取り組んでいただくということで、この助成金制度は団体向けで実施している。

(評価者) みんなに認知してもらう方法としてくろまる塾がある。そこで何人ぐらいだったらできますとか、もう少し皆さんに知っていただける方法を考えていただきたい。それと、パソコンを使って宣伝する、ポスターを作って集会所に貼っていただくなど。自分たちの地域は自分たちで守るという意識がまだまだ私の中でも育ってないので、誰かにお任せてしてしまう部分があるのだが、自分たちの地域は自分たちで守るという意識が浸透していけばと思う。

(担 当) 集会所に貼ることのできるポスターを考えていきたい。

(評価者) これまで助成金で活動してこられた団体で、モデルになるようなものがあれば教えてほしい。

(担 当) 防犯活動と一言言っても、パトロール、青色防犯パトロール、車で校区内全体を回るといったものが美加の台や加賀田、南花台である。犯人がある地域に来たときにまず地域性を見る。そこで皆さんが同じようなユニフォームを揃えてあちらこちらで見張っている、ご近所同士で知り合いが多いような地域では、抑止の効果がある。パトロールが一番効果的だとは思いますが、ある自治会では高齢化でそこまでできない、ある地域では広くてパトロールできないところもあり、皆さんで「不審者を見つけたら110番」という看板を貼っている地域もある。そういった活動も防犯活動として半額補助させていただいている。自主防犯活動の補助制度はそういったところで利用されており、声かけ運動の方は個人でもできる。自治会の福祉活動で介護予防のため毎週日を決めて歩くという活動があるが、その時にこのベストを着ていただくと反射板も付いているので、薄暗くなっても安全に歩ける。このように、皆さんでこのベストを福祉活動や介護予防に使用しながら防犯活動をするなど、効果的な取組みをされているところもある。

(評価者) 一グループに40万円というのは。

(担 当) 実際の経費の半額です。

(評価者) 防犯カメラは河内長野市にどれぐらいあるか。

(担 当) 自治会が設置したものか。

(評価者) ではなく、全体で。自治会ももちろんだが。

(担 当) 全体となると、事業者も付けているが、それは市に届出が無い。コンビニやマンションなども入る。公で取り付けたものは、大阪府がパイロット的にやったものが6台。去年防犯カメラについての要望を調査し、今年度は要望のあった35台について進めていく。

(評価者) 防犯カメラは一台いかほどか。

(担当) 一台あたり、費用の半額補助を行っているが上限が10万円。

(評価者) それは一台に対して10万円ということか。

(担当) はい。一台に対して10万円。防犯カメラにはいろいろ値段のものがあるが、30万円のものだと2分の1すると15万円となるが、補助は10万円まで。

(評価者) シンナーなどの犯罪が一時期ものすごく流行った。公園に街灯を付けてほしいということで設置すると、今度は近所の方から明るすぎるとの苦情が。明るくしてほしい、暗くしてほしいと、やりにくいところがあった。防犯カメラも地域の方々から玄関が丸写しになるというような、プライバシーの話もあるだろう。

(担当) やはりプライバシーの問題は出てくるので、自治会の方でプライバシーの問題について十分協議していただくようお願いしている。

(評価者) 防犯協議会の位置付けと、協議会がやっていることについてもう一度お聞きしたい。金額が大きいのでは委託料。防犯協議会にも自治会員の方々も加入していて、防犯協議会は市内全域にわたる防犯に関する啓発を行っている。それと、自主防犯活動推進団体、これも自治会と市でやっているのではないのか。

(担当) 自主防犯活動団体は主に自治会になる。青色防犯パトロール隊であるとか、主に自治会、地域の団体です。防犯協議会はもう昭和31年頃に警察が作られた団体。警察署ごとに全国規模である。

(評価者) 防犯協議会がやっていることと、市がやっていることが重複しているのではないか。住民レベルで見たとき、防犯については市に相談すればいいのか防犯協議会に相談すればいいのかがわかりにくい。

(担当) 自治会では防犯委員、環境委員、広報委員というような役割分担をされていると思う。その中で防犯委員ということで、自治会から防犯協議会に入っている。防犯協議会は先ほどの説明のとおり市と警察と防犯協議会のトライアングルの一つであり、二か月に一回程度になるが、定期で会議をもっている。警察から防犯協議会の各支部へは犯罪発生状況などが送られてきて各支部の委員から各自治会へ連絡する。そのようなつながりを持っていただいている。

(評価者) 普及啓発をする際、市の自主防犯活動の方も一緒にした方が効率的ではないか。

(担当) 防犯協議会の方でということか。委託料をもう少し増やして。

(評価者) 一緒にするのか増やすのか。防犯協議会と市の安全パトロールや防犯用の備品の配布などが分離されているように思う。

(担当) 分離しないよう、二か月に一回の定例会議で市の事業を紹介している。市からの啓発はHPとか広報紙などに限られてしまうが、地域性もある。各小学校区ごとに防犯協議会の支部があり、その下に自治会があって、連携をとっていただくようお願いしている。そこで、市にこういう制度があるので利用してはどうか、防犯カメラを付けるなら市に補助制度がある、防犯声かけ運動というのものもあるなど、連携しながら取り組んでいる。

(コーディネータ) 負担金補助及び交付金の450万円の内訳は。

(担当) 防犯カメラの分で350万円。事前協議をいただいている35台分で、既に設置しているところと、これから付けるところがある。35台分で上限が10万円なので、合計350万円。自主防犯活動助成制度では100万円の予算を計上している。

(評価者) 自主防犯活動はどちらかというと自治会、町内会の系統。防犯協議会は警察の系統だが、役員はほとんどの場合重なっているのではないか。自主防犯活動団体の代表者が防犯協議会の幹部となっているというように。

(担当) そうとも限らないが、自治会の防犯委員が防犯協議会に所属されている場合が多いのかもしれない。

(コーディネータ) 正直なところ、論点がまとまらない。何を次回詳しく聞けばよいのか。

(評価者) もう一度防犯協議会の組織立てを説明してください。なぜ防犯協議会で効率的にやらないのかなど。この229万円が気にかかる。ここに自治会や町会がぶらさがっている。防犯協議会が組織化されていることの利点と、自主防犯活動推進団体を認定することの効果、この二つを分けることは難しいのではないか。防犯というのはこれらが相重なって上手くいくのでは。

(評価者) 抑止力をアップするため、防犯協議会を自治会とは別におく、自治会は補助金を使って実務をしていく。

(担当) 防犯協議会は市域全体に関わるような大きな活動、自治会の防犯は地域の個々の対応にかかる活動という色分けされると思う。全体的な、例えば研修に行く、キャンペーンをやるといときは防犯協議会が中心になる。

(コーディネータ) ということは、防犯協議会がリーダー的な組織で、その中に自主防犯組織があるということか。

(担当) 結果的にはそういうことになる。

(コーディネータ) 大阪府内では防犯協議会は皆共通のはず。豊中ではだいたい小学校単位で防犯協議会を作っている。

(担当) 防犯協議会の各支部はある。

(コーディネータ) 地区支部と自主防犯組織とはまた別か。

(担当) 美加の台などでは同じ。支部長さんが青色防犯パトロール隊の隊長である。しかし地区ごとにどなたを防犯協議会に出していただくかを決めている。自主防犯団体を組織しないと防犯協議会に入れないということではない。組織されていない自治会さんでも、夜の見回りのようなものも防犯活動といえる。活動の差はもちろんあるが、各自治会は助成金を活用していなければ防犯協議会に入れないというものではない。市や警察と防犯協議会が会議の中で情報を共有し、それを地域に流していただくという役割を担っていただいているのではないかと考えている。

(評価者) そこで課題がわかると、問題解決のためにこの自主防犯活動推進団体の助成を受けようという流れになるということか。

(担 当) 新しく支部長になられた方が、防犯協議会に入れば他の地域の情報も得られる。支部長会議でこの地域はこんなことを始めた、市の助成金を使ってこんなんやった、うちの地域でもやってみよう、というような場にしていただいていると思う。

(評価者) そういう協議会の活動がある中で、今回市が評価者に聞きたいこととして「効果的な周知の方法」とある。もっと効果的な周知の方法というところで、なぜ市全域のPRや啓発をやっている防犯協議会をもっと活用しようとならないのか。

(担 当) 防犯協議会でもさせていただくのだが、他にもいろいろなメディアを使った取り組みはないか、提言をいただきたい。

(評価者) 少し冷たい言い方になるが、防犯協議会の毎年の委託料が本当に適切なのかどうかを評価する必要はないか。事業の適正執行ということでは、今回は防犯協議会への委託料、それから河内長野少年補導員連絡協議会への委託料と、別途行っている補助事業、これらを総合して本当に上手く機能しているかどうかを評価してほしい、それが今回の課題。防犯協議会で防犯の普及・啓蒙が上手くできているかを市が評価・検証する必要はないのかどうか。難しいのはわかるが、いろんなことが重なり合って防犯が成立するということ。

(担 当) それぞれボランティアとして、この費用以外のところでも、本当に精一杯取り組んでいただいているというように考えている。

(コメンテーター) 犯罪件数などは非常に詳しく書かれているが、三者の組織関係がよくわからなかった。それを説明する図面をもう少し詳しくしてほしい。防犯協議会の立ち位置、行政の役割、自主防犯組織、自治会や町内会、それから補導員の仕事、これらをどういう風に組み合わせているのか。

(担 当) 説明の表をもう少し詳しくするよう調整する。

(コメンテーター) それを見た上でもう一度皆さんに評価いただきましょう。

(評価者) 地域によってこの防犯体制は50点、ここは30点、ここは80点。ここはもっと強化しなければならないというような分析もしていただくと非常にバランスよく上手くいくと思う。ただ一方的に下から吸い上げて、要望があつたらカメラを設置するというのもそれはそれで良いが、他にも各エリアでの問題点、対処の仕方、抑止というの必要ではないか。

(担 当) 防犯カメラも去年から始めたばかり。実際に防犯カメラを設置した効果はどうであったかということも出していききたいが、まだ実績が無い。次年度以降であれば出てくる。

(評価者) やはり実績を出して話をすべきだろう。

(評価者) 先ほどお話のあった地域別の犯罪発生分布状況調査というプライバシーに関わる問題もある。交通事故に関する情報なら出てくるが、これは客観的事実であるから。駐在所管内別なら出ないか。

(担 当) 今ここですぐにはお答えできないが、調整したい。

(コーディネータ) 例えば市街地住宅地向けの犯罪発生と、それから商店街と、農業地帯などで区分して整理した資料を出してもらえないか。

(担当) それも含めて検討する。平成21年度で1位の犯罪阻止率が、22年度、23年度で3位になっている。これをまた1位に上げたいという気持ちはあるので、そのための資料があれば、出せるものについては出していくという方向で調整したい。

(コーディネータ) というのも、せっかく1位、2位、3位とベスト3を維持してきて、それは良いことだと私たちも思っているのに、なぜそんなに成績いいのかのバックデータが無い。どうして他の地域より成績良いのかの説明ができていない。

(担当) この1月から6月の状況を見ますと、自転車盗やオートバイ盗が多くなったため、河内長野市は6位か7位。そこまで落ちてきているので、それを踏まえて警察と協議し、何が抑止になっていくのか、あるいはそういう資料が出せるのかを次回までに精査する。

(コーディネータ) くどいようだが、成績が良かったのはなぜなのかという分析ができてないということ。過去の成績はトップだったので、今までと同じようにやればきっとトップが守れる、それでは首位の座は守れない。勝ってきた理由はこれだ、だからこれをもっと強化していこうというような施策が生まれなければならない。

(担当) それが今申し上げたように、オートバイ盗であり自転車盗である。市としては今年度、チェーンの配布などで対処していこうと考えている。もっと大きな部分での話はまだあると思うが。

(コーディネータ) 多分私は町の人同士の仲が良くて、顔見知り関係も濃厚に残っているからだと思う。

(担当) 町村はもちろん犯罪率が低い。

(コーディネータ) それは面識関係が残っているからだと思う。

(評価者) 他の市町村では、ここ何年かで新しい住民が増えてきている。そうすると自治会加入率が低下していくのではないか。全て自治会からの連絡、協議会にしても自治会を通じての連絡になっている。それ以外の普及啓発ということを重視していかなければならないのかもしれない。

(コーディネータ) どちらにしても、今協議したようなことについて追加資料があれば、次回の話し合いはもっとクリアになると思う。